

ゆめプラONEコイン映画会

ペンギン・ハイウェイ ～石田祐康監督を迎えて～

2019年8月17日(土) 14:00開演(13:30開場)

ゆめたろうプラザ(武豊町民会館) 輝きホール《全席自由》
司会: 牛田有香(知多娘、武豊乙姫役)

チケット料金 一般(高校生以上) 500円
子ども(3歳～中学生) 100円

いまアニメ界で一番注目されているアニメーション監督の石田祐康さんは、地元美浜町出身の30歳。高校生の頃、ゆめたろうプラザで行われた「映像メディア講座」に参加していた縁もあり、今回は「おかえり! センパイ」として、ゆめたろうプラザで監督のトークショーと、初の長編アニメーション作品「ペンギン・ハイウェイ」を上映します。開催にあたり、石田監督を育てたお母様と恩師にお話を聞きました。

石田監督の お母様に聞きました!

Q. 小さな頃はどんなお子さんでしたか?

両親が共働きだったため、普段はみかん農家の祖父が畑で子守をしていました。物心がついた頃から手には紙とペンを持ち、いつもお絵かきをしている子どもでした。保育園の頃は、当時流行っていた漫画を写して描くことが好きでした。保育園では、先生が祐康の描いた絵をよくほめてくれて、教室に貼ってくださったりしていました。小学校にあがってからも、勉強より絵を描くことが好き。そんな子どもでした。両親ともアニメが好きで、自分たちの好きなものを一緒に楽しみたいということから、父親は子どもたちをよく映画(「ドラえもん」、「ドラゴンボール」、ジブリ作品など)に連れて行きました。私は「トムとジェリー」が好きで、録画したものをよく一緒に観ていました。

Q. 進路を決める時に、どのようなアドバイスをしましたか?

基本的に「自分で考えて、好きなことを好きなようにすればいい」と思っているのですが、本人任せのところがありました。私たちは、やりたいことを見つけた息子の背中を押すだけでした。ただ、「美術の道に進むなら、就く仕事のことも含め将来のことを覚悟のうえで進みなさい。」とは言いました。アニメーション監督になって、「ペンギン・ハイウェイ」の試写会で大勢のマスコミや有名人に囲まれている息子を見て、驚きと嬉しさを感じま



© 2018 森見登美彦・KADOKAWA / 「ペンギン・ハイウェイ」製作委員会

した。

中学3年生の時、「旭丘高校に行きたい」と言い出した時には、今の成績ではとても無理と言われましたが、足りない成績を補うため自分で塾も探し、今までにないくらい勉強を頑張り合格しました。目標ができるといいですね。

大学進学で家を出ていく日の前夜に家族で食事に行ったのですが、「この子は戻ってこないだろうな。ああ、もうこんな風に家族で集まって過ごすことはないかもしれない。」と覚悟して送り出しました。母としては少し寂しかったですが、今は好きなことを仕事にできているのを見て、とても嬉しく思います。これからも健康で好きなことに向き合っていて欲しいと思っています。

アドバイスというアドバイスは特にしませんでした。自分で道を見つけ歩んでいる息子を頼もしく思います。

石田監督の 中学時代の恩師に聞きました!

Q. 進路を決めた時にどのようなアドバイスをされましたか?

「高校の普通科に進んでから、もう一度自分の進路を考えても遅くない」とアドバイスしましたが、本人が美術の道に進みたいという気持ちが強かったため、高校の美術科を受験するために、実技の勉強をしっかりとるように勧めました。高校に入学してからは、絵画だけではなく、いろいろな経験をしてほしいと思い、映像制作の体験を勧めました。

Q. 中学生のころからなにか光るものを感じていましたか?

1年生の頃から抜きん出た描写力をもっていました。暇があると絵をいろいろな紙に描いていました。プリント類やノート、教科書にも描いていた気がします。周囲の友だちからも頼まれて描いていたと思います。2年生の後半からどんどん描画力が伸びてきて、特に、自分が表現したいことをもとに構図をしっかり工夫するようになってきました。コミックの影響もあったかと思いますが、この頃から、真似て描くことから自分の表現を試していたと思います。それも、失敗しても失敗しても、飽きずにあきらめずに続けていました。これはとっても大切な才能だと思います。

Q. 中学の時の様子から、今の活躍している姿を見て、どんなことを思いますか?

大変うれしく思います。あれだけ楽しそうに一生懸命に絵を描いていたので、今の活躍の様子を見て本当によかったなと思っています。これからもいい作品をたくさん作って、世界中の人に届けてもらいたいと思っています。

Q. これから進路を決めたい子どもたちにアドバイスををお願いします。

なかなか、今すぐに自分の道を決めることはできないと思います。ただ、こつこつと地道に努力を続けていくことは自分の気持ち次第でできることです。今日できなかったことが、あきらめずに続けることで、明日できるようになるかもしれません。その先に自分のやりたいことや仕事が見えてくる気がします。「天才とは努力する凡才のことである」とアインシュタインは言っています。ということ、努力することで誰でもが、何かの天才になれるということです。

石田祐康プロフィール

1988年、愛知県知多郡美浜町に生まれる。愛知県立旭丘高等学校美術科に入学。在学中にアニメーションの制作をはじめ、2年生の時に処女作「愛のあいさつ - Greeting of love」を発表。京都精華大学マンガ学部アニメーション科に進学し、2009年に発表した自主制作作品「ファミコの告白」は、第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞など数々の賞を受賞。2011年に同大学の卒業制作として発表した「rain town」も第15回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門新人賞などを受賞した。2011年にスタジオコロリドの設立に参加。2013年に初の商業用劇場作品となる「陽なたのアオシグレ」を監督し、2018年、森見登美彦の小説を原作とする「ペンギン・ハイウェイ」で、初の長編劇場アニメの監督を務め、第42回日本アカデミー賞アニメーション部門優秀作品賞に選ばれる。



関連企画
入場無料

原画展

「ペンギン・ハイウェイ」の原画や絵コンテ等に加え、石田監督のお母様や恩師提供の蔵出し作品一挙大公開!

会期: 8月16日(金)→18日(日) 10:00~19:00(最終日は17:00まで)

ギャラリーにて